

3 学年国語科学習指導案

授業者 新沼 健

- 1 日時 平成16年10月5日(火)第6校時
- 2 学級名 3年2組(男子 18名 女子 20名 計 38名)
- 3 主題 単元四 状況に生きる
- 4 主題について

(1) 単元について

本単元は、「読むこと」に本格的に取り組む学習としては、中学校3年間最後となる。

「故郷」、「二つの悲しみ」、「お辞儀」の3つの教材からなるこの単元では、時代(社会)そして、自分の周囲の状況に対して真摯に向かい合おうとする人間の姿が共通して描かれている。

「故郷」では、思い出の中にある故郷に憧れを抱いていた主人公の「わたし」が、帰郷することで、実家そして友人のルントウ(閩土)の変容を目の当たりにし、現実的に故郷そして、社会をとらえ、新たな希望を抱く様子が描かれている。

学習指導要領の「C 読むこと」の指導項目には、「ア 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方について役立てること」、「ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」とある。

本教材は、使われている語句や表現技法が作品のテーマや展開にとって重要な位置を占めている。そこで、単に文章を読んで自分なりに考えるのではなく、表現を根拠にして自分の考えを示すような学習を展開していきたい。そこで、【表現に注目し、また表現を根拠として、書き手の思いに迫らせる】ことで、一人一人の読みを確かなものにしていきたい。

(2) 生徒の実態

生徒達は、教師の指示を聞き、発問については真剣に取り組む生徒が多いが、一方で自ら課題を設定し意欲的に学習することや自分の考えを積極的に表現する姿勢が乏しい。

したがって、自分の考えをノートに書くことはできても、それを人前で発表することを苦手とし、他者と意見を交流し合う学習がなかなかできない状況にある。

「読むこと」について言えば、表現に着目し、その表現を根拠として、登場人物の思いやその場面の情景を読み取ることについては、授業の中で取り組む機会が多いので生徒はその学習に慣れている。しかし、その表現の特徴に注目して読む、その表現の意図までしっかりと読むという段階になると、学習活動になかなか取り組まない生徒が多い。

(3) 指導の構想

文学教材における「学ぼうとする力」の育成について国語科では、“課題設定を教師が提示するのではなく、生徒自身の疑問点や興味・関心を基にしながら生徒自身が課題を作る過程を設けよう”と試みている。従って、「故郷」の指導に当たっても、作品を読んだ際の初読の感想、疑問点などを基にしながら、課題を設定する。

また、生徒の興味・関心をもたせるための工夫として、単元の導入時に、各界の著名人の生き方について取り上げた文章を読ませ、様々な状況の中(この場合は仕事)での人間の生きる姿がどのようなものか感じさせたい。

課題解決に関しては、文章中の表現に着目し、その表現を根拠として、主人公の心情や書き手の思いに迫らせたい。実際の授業場面では、自分の考えをしっかりと書かせ、それを基に意見交流を行い、自分の読みを深める活動を取り入れながら、読む力を育成したいと考える。

5 単元の目標

- (1) 関心・意欲・態度・・・三つの作品を読み、状況に生きる人間の姿を文章中の表現を基にして読み取ろうとする。
- (2) 話すこと・聞くこと・・・自分の書いた文章を踏まえ、説得力のある表現の仕方に注意して、スピーチしたり、聞き取ったりすることができる。
- (3) 書くこと・・・ふさわしい文章の形式を選び、目的に応じた構成を工夫して自分の考えを書くことができる。
- (4) 読むこと・・・文章中の表現に注目しながら、登場人物の心情の変化、行動の意味するもの、その表現効果について考え、作者の思いをとらえることができる。

6 指導計画

(1) 単元の指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・15時間

各界の著名人の生き方について取り上げた文章を読ませ、様々な状況の中での人間の生きる姿がどのようなものかを理解できる。 1時間

「故郷」を読んで、状況の中に生きる「わたし」の姿に焦点をあて、表現に着目しながら「わたし」の心情や作者の思いをとらえることができる。 (本時 6/7) 7時間

「二つの悲しみ」を読んで、肉親を亡くした二人の人物の思いを、主人公がどうとらえたのかをとらえることができる。 2時間

「お辞儀する人」を読んで、作者が中国残留孤児である劉さんをどんな思いで見つめているのかをとらえることができる。 1時間

状況と人間について自分のテーマをもち、それを文章に表現することができる。 2時間

書いた文章をもとに、説得力のある表現の仕方に注意してスピーチすることができる。 2時間

(2) 教材の指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・7時間

「故郷」を読み、自分がこの作品で考えてみたい点や印象に残った場面を挙げる。 1時間

個人の課題(考えたい点・印象に残った場面)を出し合い、班ごとに課題を精選するとともに、作者や作品の時代背景について理解する。 2時間

前時に設定した課題を解決しながら、「わたし」の心情や作者の思いをとらえる。 4時間

(本時 3/4)

7 本時について

(1) 本時の目標

ア 課題の内容を理解し、表現に着目しながら課題解決を図ろうとする。(関心・意欲・態度)

イ 「だんな様！.....」をめぐる「わたし」とルントウの二人の思いを表現に着目しながらとらえることができる。(読むこと)

(2) 研究主題に関わる本時の構想

ア 課題提示の工夫

個人の疑問点をもとに班で話し合った課題を提示することで、自らが立てた課題を意欲的に解決する姿勢が生まれると考えた。

イ 学習過程の工夫

自分の考えと他者の意見を交流させることにより、自分の考えを深めさせることができると考えた。

8 本時の展開(別紙)

9 本時の評価 (評価規準表については別紙)

(1) 関心・意欲・態度

A 文中の表現に着目し、時代背景や社会状況も踏まえながら、「わたし」とルントウの思いを理解しようとしている。

B 課題の内容を理解し、文中の表現に注目して、「わたし」とルントウの思いを理解しようとしている。

C 学習活動内容をしっかりと把握させるとともに、他者の意見を参考として自分の考えを広められるよう支援する。

(2) 読むこと

A 「だんな様！.....」をめぐる「わたし」とルントウの思いについて、文中の表現を根拠にし、時代背景や社会状況も踏まえながら自分の考えをまとめている。

B 「だんな様！.....」をめぐる「わたし」とルントウの思いについて、文中の表現を根拠にし、自分の考えをまとめている。

C 読み取らなければいけない範囲を明確に伝え、「わたし」とルントウの思いが分かる表現を指摘し、二人の思いをとらえることができるよう支援する。

第3学年国語科年間指導計画および評価規準、具体の評価規準表

月	単元名(時数)	到達目標	教材名(時数)	評価規準	観点	評価	具体の評価規準	評価方法	
10	四 状況に生きる	文章や作品の世界と、そこに描かれた状況との関わりをとらえ、主題を考えることができる。	故郷 二つの悲しみ お辞儀するひと 【11時間】	文章や作品を呼んで、人間や社会について自分のものの見方や考え方を深めようとする。	関	A	様々な時代の状況や歴史との中で生きた人々の思いに関心を持ち、その文章や作品が生まれた背景を考え、自分の見方や考え方に生かそうとしている。	観察 ノート	
						B	時代の状況や歴史に関心を持ち、その文章や作品が生まれた背景を考えようとしている。		
						C	既習の作品と、背景となる時代の状況との関わりを想起させる。		
				三つの作品や文章の背景にある時代を、作品や文章と関連付けてとらえることができる。	読	A	背景となる時代の状況について作品との関わりを意識して必要な情報を集めて調べ、作品背後にある時代状況をつかむことができる。		ノート 観察
						B	背景となる時代の状況について必要な情報を集めて調べ、作品や文章の背景にある時代の状況をとらえることができる。		
						C	必要な情報の一端を与えるとともに、他にはどのような情報が必要か、どのような集め方があるかを考えさせる。		
			「故郷」を読んで、状況の中での「わたし」の気持ちの変化に焦点を当て、作者がこの作品に込めた思いを読み取ることができる。	関	A	「故郷」における情景描写や、回想の中のルントウと現実のルントウの描かれ方などを的確におさえ、それらの関わりの中で「わたし」の気持ちの変化をたどり、「わたし」の「希望」とは何か、なぜ希望するのかを考えることができる。	ノート 単元テスト		
					B	「故郷」における情景描写や、回想の中のルントウと現実のルントウの描かれ方などに着目しながら、「わたし」の気持ちの変化をたどり、「わたし」の「希望」とは何かについて考えることができる。			
					C	場面の展開をおさえながら、それぞれの場面での「わたし」の気持ちを具体的描写を根拠としながら考えさせる。			
			「二つの悲しみ」を読んで、肉親を亡くした二人の人物の思いを筆者がどのようにとらえたかを理解することができる。	読	A	「二つの悲しみ」における紳士と少女が肉親の死という現実を前にどんな様子だったのかをふまえ、それぞれの思いを筆者がどのようにとらえたのか、根拠となる記述をおさえながら説明することができる。	ノート 単元テスト		
					B	「二つの悲しみ」における、紳士と少女が肉親の死という現実を前にどんな様子だったのかをおさえ、それぞれの思いを筆者がどのようにとらえたのか理解することができる。			
					C	紳士と少女が肉親の死という現実を前にどんな様子だったか、描写を示しながら、それぞれの思いやそれを筆者がどのようにとらえたかを考えさせる。			
「お辞儀するひと」を呼んで、作者が中国残留孤児である劉さんをどんな思いで見つめているかを考えることができる。	読	A	「お辞儀するひと」の中で劉さんの姿を作者はどのように描いているかを根拠となる記述を挙げながらおさえ、作者が抱いている思いを豊かに話すことができる。	ノート 単元テスト					
		B	「お辞儀するひと」の中で、劉さんの姿を作者はどのように描いているかをとおさえ、作者の思いを話すことができる。						
		C	あらかじめ調べた時代の状況と詞書きや第一連から劉さんの状況を想像させ、劉さんにどんな思いを抱いていたかを考えさせる。						

第3学年国語科年間指導計画および評価規準、具体的評価規準表

月	単元名(時数)	到達目標	教材名(時数)	評価規準	観点	評価	具体的評価規準	評価方法
10	四 状況に生きる	文章や作品の世界と、そこに描かれた状況との関わりをとらえ、主題を考えることができる。	故郷 二つの悲しみ お辞儀するひと 【11時間】	三つの作品の文章の表現のしかたや特徴をとらえ、その表現意図について考えることができる。	読	A	三つの作品の文章の表現のしかたや特徴をその効果と共にとらえ、その表現意図について主題と関連させてとらえることができる。	ノート
						B	三つの作品の文章の表現のしかたや特徴をとらえ、その表現意図についてとらえることができる。	
						C	「描写を読む」を参考にさせ、また具体的な視点を示しながら、それぞれの表現の特徴をとらえさせる。	
			「寂寥の感」などの抽象的概念を表す語句について理解することができる。	言	A	「寂寥の感」などの抽象的概念を表す語句について、文脈の中での意味や表現効果を理解し、語彙を豊かにすることができる	観察 自己評価用紙	
					B	抽象的概念を表す語句について、文脈の中での意味や表現効果について理解することができる。		
					C	辞書を使って、基本的な意味を理解させ、文脈上の意味をつかませる。		
	ふさわしい文章の形式を選び、目的に応じた構成を工夫して、自分の考えを書くことができる。	視野を広げ考えを深めよう 【2時間】	広く材料を集め、自分の考えが効果的に伝わるよう、書き方を工夫しようとする。	関	A	広く材料を集め、自分の考えが効果的に伝わるよう、明確な意図を持って書き方を工夫しようとしている。	観察	
					B	広く材料を集め、自分の考えが効果的に伝わるよう、書き方を工夫しようとしている。		
					C	材料の集め方や書き方の工夫の仕方について、どのような方法があるか、具体例をいくつか示して選ばせる。		
		状況と人間について、広い範囲から情報を集め、ふさわしい形式を選んで書くことができる。	書	A	状況と人間について、広い範囲から情報を集め、表現の効果を考えながらふさわしい形式を選んで書くことができる。	作文		
				B	状況と人間について、広い範囲から情報を集め、ふさわしい形式を選んで書くことができる。			
				C	今までの学習で経験した感想文・意見文などの学習を振り返らせ、その中からふさわしい形式を選ばせたり考えさせたりする。			
読み手が理解し、納得できる内容になっているか、書き上げた文章を	書	A	読み手が理解し納得できる内容になっているか、書き上げた文章を観点を意識して的確に推敲し、表現を練り上げることができる。	自己評価用紙 作文				
		B	読み手が理解し納得できる内容になっているか、書き上げた文章を推敲し、表現を練り上げることができる。					
		C	「推敲の大切さ」を参考に、生徒同士で相互評価させ、それによって書き直させる。					

第3学年国語科年間指導計画および評価規準、具体的評価規準表

月	単元名(時数)	到達目標	教材名(時数)	評価規準	観点	評価	具体的評価規準	評価方法
1 0	四 状況に生きる	自分が書いた文章を踏まえ、説得力のある表現のしかたに注意して、スピーチしたり、それを聞き取ることができる。	自分の考えを訴えよう 【2時間】	引用部分や強調したい部分に変化をつけて、聞き手の心に届くような話し方の工夫をすることができる。	話聞	A	引用部分や強調したい部分に効果的な変化をつけて、聞き手の心に届くような話し方の工夫を豊かにすることができる。	観察 発表シート
						B	引用部分や強調したい部分に変化をつけて、聞き手の心に届くような話し方の工夫をすることができる。	
						C	「聞き手を意識した話し方」を参考に、数人の生徒を例に示させ、どんな変化のつけかたがあるかを考えさせる。	
				友達の話の内容、表現のしかた、話し方についての感想を聞き取り、メモに記録し、自分の表現に生かそうとすることができる。	話聞	A	友達の話の内容、表現のしかた、話し方についての感想を聞き取りメモに記録し、自分の表現に生かせる点を具体的に挙げるることができる。	観察 聞き取りメモ
						B	友達の話の内容、表現のしかた、話し方についての感想を聞き取りメモに記録し、自分の表現に生かそうとすることができる。	
						C	「話すこと・聞くこと」の学習を振り返らせ、会の進め方やメモの取り方を考えさせる。	
				同音異義語を他の語句に置き換えたり、敬語の使い方など相手や場に葉遣いを考えたスピーチをすることができる。	話聞	A	同音異義語や敬語の使い方に気をつけ、言葉遣いへの適切な配慮が分かるスピーチをすることができる。	観察 発表原稿
						B	言葉遣いを考えたスピーチをすることができる。	
						C	スピーチ練習時、言葉遣いに注意するよう具体的なアドバイスをする。	